

## 第2回宗像市幼児教育審議会議事録(要点筆記)

日 時:令和3年10月14日(木)18時00分～19時15分

場 所:宗像市役所第2委員会室

出席者:船越会長、高杉副会長、納富委員、牛島委員、井手委員、大和委員、  
原田委員、井中委員、荻野委員、棚橋委員

事務局:(教育子ども部子どもグローバル人材育成担当部長)徳永部長、  
(教育政策課)名切指導主事、  
(子ども育成課)中野課長、賀来参事、田中係長、瀧口係長、米野、三好、三吉

### 【会議内容】

#### 1 あいさつ

(会長よりあいさつ)

#### 2 協議

- ・宗像市幼児教育振興プログラムの育てたい幼児像について

### 【委員からの意見】

〈育てたい幼児像について〉

- ・「生きる力」は変えようのない必要な力。
- ・「生きる力を育むために」という文言は凝縮してありよい。
- ・「宗像っ子の幸せに生きる力を育む」という表現はどうか。たとえ自立しても本人が幸せでないと何もならない。本当の目的は「自分が幸せに生きる」ということ。
- ・「生きる力」というのは保護者に伝わりにくい。「生きる力」という表現は、躓いている子をいかに育てるかが大切。
- ・「宗像っ子」の表現が適しているのか、定義して説明できるとよい。
- ・「嫌」「助けて」「教えて」と言える子どもに育てる。
- ・「育てたい幼児像」はシンプルで良い。
- ・標記上の意味と本来の意味との違い。育てたい幼児像の「ひと」はひらがなで、共通目標での「人」は漢字になっている。
- ・今ある表現を集約すると「自分・人・環境との関わりを大切にする」ということではないか。
- ・誰にでも受け止められるような表現の仕方が大切。
- ・保護者・職員に配布したときに、理解できているのかわからない。
- ・「ひと」「もの」「こと」を大切にしながら保育をしている。大切なことがプログラムに集約されているので、これ以上文字を増やすと理解しにくい。
- ・保護者向けのパンフレットはイラストがありわかりやすく、保育士も理解しやすい。
- ・イラストを入れるのはいいが、そのイラストが本当に伝えたい意図に合った意味を表しているのか。
- ・パンフレットが浸透していないので、せっかく良いことが書かれているのにもったいない。
- ・保護者に渡すパンフレットにはわかりやすい言葉を使う。

- ・保護者にパンフレットを渡す際に、ただ連絡帳に挟むだけでなく渡し方を工夫するとよい。
- ・幼児期教育振興プログラムのダイジェストを作る時は、噛み砕いて読みやすいものにするとよい。
- ・大切なことは繰り返し発信しないと定着しない。
- ・家庭に広げるためには、若者が情報を得ているアプリを作って発信していくとよい。
- ・情報は変わりやすいので、それに対応できるように電子(QRコード等)を活用するとよい。
- ・パンフレットについてのアンケートをとるのは、見てもらうためのきっかけとなる。
- ・アンケートの回答率は約半数(400人ほど回答)
- ・アンケート共に具体的に回答者にインタビューするのもよい。
- ・アンケートに関して半数が回答し、肯定的な意見が多いのはよい。
- ・回答での「わからない」と回答された人にインタビューや踏み込んだ抽出を行い、内容を詳しく調べることが良いのではないか。そうすることで実態と目標の整合性につながる。
- ・全員が共有できる言葉の表現方法が必要。例えば、「今日の出来事を家族に話しますか」という質問は、言葉の発達が遅い子は答えにくいのではないか。
- ・自信を持って取り組む姿を大事にしたい。「やれる」という気持ちや自信・モチベーションが大切である。そのために、幼稚園・保育園の時期に色々な体験・経験が必要。それが、「乗り越える力」や「耐える力」につながる。
- ・子どもが主体的に遊ぶことが大切。ルールは遊びの中で学ぶ。
- ・行動力・自立・思考・発想力は幼児期が大切。
- ・自尊心を大切にすること、思いやりを持つことが大切。
- ・他市町村を参考に、遊びが大切という表現を入れるとよい。
- ・好奇心をもって挑戦する子どもに育てほしい。
- ・「好奇心」「挑戦」「危険察知」の三角形を上手に表現できたらよいと思う。
- ・親子の信頼関係を大切にしていく。
- ・子どもの心を育てていくことの大切さ、家庭教育の大切さを親に伝えていく。

#### 〈共通目標について〉

- ・目標を共有することが大切。
- ・共通目標は簡潔に、誰でもわかりやすい言葉がよい。
- ・家族から見守られ、大切にされていると信頼関係ができ、相手を認めることができる子どもになる。
- ・「友だちを大切にできる心」に多様性が含まれる。
- ・言葉で伝えられない子は「人やものとかかわる力」に含まれると捉えられる。
- ・「話を聞く・言葉で伝える力」という文言は、発達により言葉が発せない子もいる中で、この表現にひっかかる人もいないのではないか。「人やものとのコミュニケーション」という表現はどうか。
- ・「表現できる力」という言い回しにするとよい。今は色々な表現の仕方があり、言葉だけが表現の方法ではない。
- ・「話を聞く力」より「自ら考える力」への表現がよい。子どもも考える力があることを大人が理解する必要がある。
- ・幼児期は、話を聞く力よりも自ら考え表現することが大切。これは子どもの社会発達支援の原点。

- ・共通目標の2番目は、「伝え合う力」にして、多様な親と子どもの共通目標にするのがよい。B「伝え合い保育」という日本の有名な保育方法があり、これは基本的な大切なことである。
- ・「伝え合う力」という表現がよい
- ・双方向のコミュニケーションが必要。うなずきなども表現の一種。
- ・人間は色々なものと対話する(自分・相手・自然)ので、「もの」が入っているのではないか。
- ・基本的な生活習慣を身に付けてほしい。ゲームに依存している子が増えているが、これは子どもだけの責任ではなく、大人の責任でもある。コントロールする力を身に付けてほしい。
- ・「丈夫な心や体」という表現は、様々な障害がある中でこのような表現はどうか。理想論ではあるが「丈夫な」という言葉が引っかかる。
- ・基本的な生活習慣を身に付けることは、楽しく生活するために必要だということを示すのがよいのではないか。

### 3 その他

- ・第3回の幼児教育審議会の日程について